

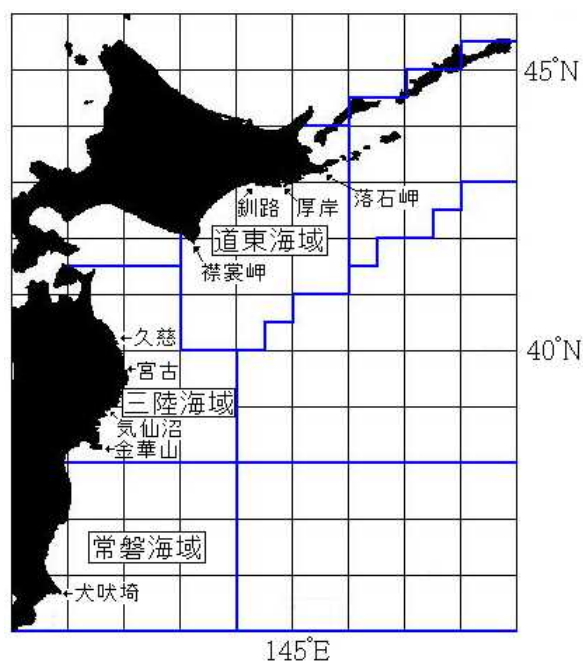
2019年度 第8回サンマ中短期漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し一般社団法人漁業情報サービスセンターがとりまとめた結果 －

今後の見通し(2019年11月下旬～12月下旬)のポイント

来遊量

- ・道東海域は、終漁。
- ・三陸海域では、来遊があるが、来遊量は少ない。
- ・常磐海域では、11月下旬は低位水準で増加する。



海域の名称

問い合わせ先

一般社団法人漁業情報サービスセンター 漁海況部
担当：渡邊、藤井
電話：03-5547-6889、ファックス：03-5547-6881
当資料のホームページ掲載先URL
<http://www.jafic.or.jp/gyokaikyo/>

2019年度 第8回サンマ中短期漁況予報

1. 今後の見通し

予測期間：2019年11月下旬から12月下旬までの旬別

対象海域：道東海域、三陸海域、常磐海域

対象漁業：さんま棒受網漁業

対象魚群：南下回遊群

1) 道東海域

(1) 来遊量

魚群の来遊が少なく、終漁。

(2) 漁場

漁場は形成されない。

2) 三陸海域

(1) 来遊量

11月下旬は低位水準で減少する。12月上旬は来遊が断続的となり、終漁となる。多くの魚群は、三陸海域よりも東側を南下する。

(2) 漁場

11月下旬は三陸北部～南部に、12月上旬は三陸南部に漁場が形成される。主漁場は三陸沿岸から離れた沖合である。12月中旬以降、漁場は形成されない。

3) 常磐海域


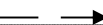



(1) 来遊量

11月下旬は低位水準で増加するが、12月上旬は低位水準で減少する。12月中旬は来遊が断続的となる。12月下旬は来遊量が少なく終漁となる。

(2) 漁場

11月下旬～12月中旬は、常磐海域北部～南部が漁場となる。

2. 予測の概要

海 域		11月下旬	12月上旬	12月中旬	12月下旬
道東海域	来遊量				
	動向				
	漁 場				
三陸海域	来遊量				
	動向	低位減少	断続的		
	漁 場	三陸北部 ～南部	三陸南部		
常磐海域	来遊量				
	動向	低位増加	低位減少	断続的	
	漁 場	常磐北部 ～南部	常磐北部 ～南部	常磐北部 ～南部	

3. 漁況の経過概要（11月上旬）

1) 道東海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した道東海域における来遊量の水準は、前旬および前年を上回ったが、低位水準であった。日別CPUE（1網当たりの漁獲量）から判断すると、道東海域における来遊量は、期前半に増加したが、その後減少した。

道東海域では、落石南南東60海里～霧多布南40海里に漁場が形成された。

主漁場は、道東海域より東側の花咲港東～東南東沖であった。

(2) 漁場

落石南南東60海里～霧多布南40海里（漁場水温11～15℃）では、小型船主体に大型船も操業。小型船は十数トン漁獲した船もあったが、大型船は最高で5トン程度の漁獲であった。

道東海域より東側の海域においては、花咲港東～東南東沖が漁場となった。花咲港東～東南東沖（漁場水温11～14℃）では、大型船と小型船が多数操業。1晩で満船近く漁獲した船もあったが、徐々に船間差が大きくなった。

(3) 魚体

道東海域、道東海域よりも東側ともに体長27cmモードと29～30cmモードであった。体長29cm以上の魚の体重は120～130g台が主体であった。

2) 三陸海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した三陸海域における来遊量の水準は、前旬を上回ったが前年を下回り、低位水準であった。日別CPUE（1網当たりの漁獲量）から判断すると、三陸海域における来遊量は、期前半に増加したが、その後減少した。

三陸海域では、大船渡東80～90海里に漁場が形成された。

主漁場は、三陸海域より東側の宮古東北東130海里付近、大船渡～気仙沼東沖の150～230海里付近であった。

(2) 漁場

大船渡東80～90海里（漁場水温11～15℃）では、5～6日夜に大型船数隻操業し、最高68トン、平均29トン程度漁獲した。

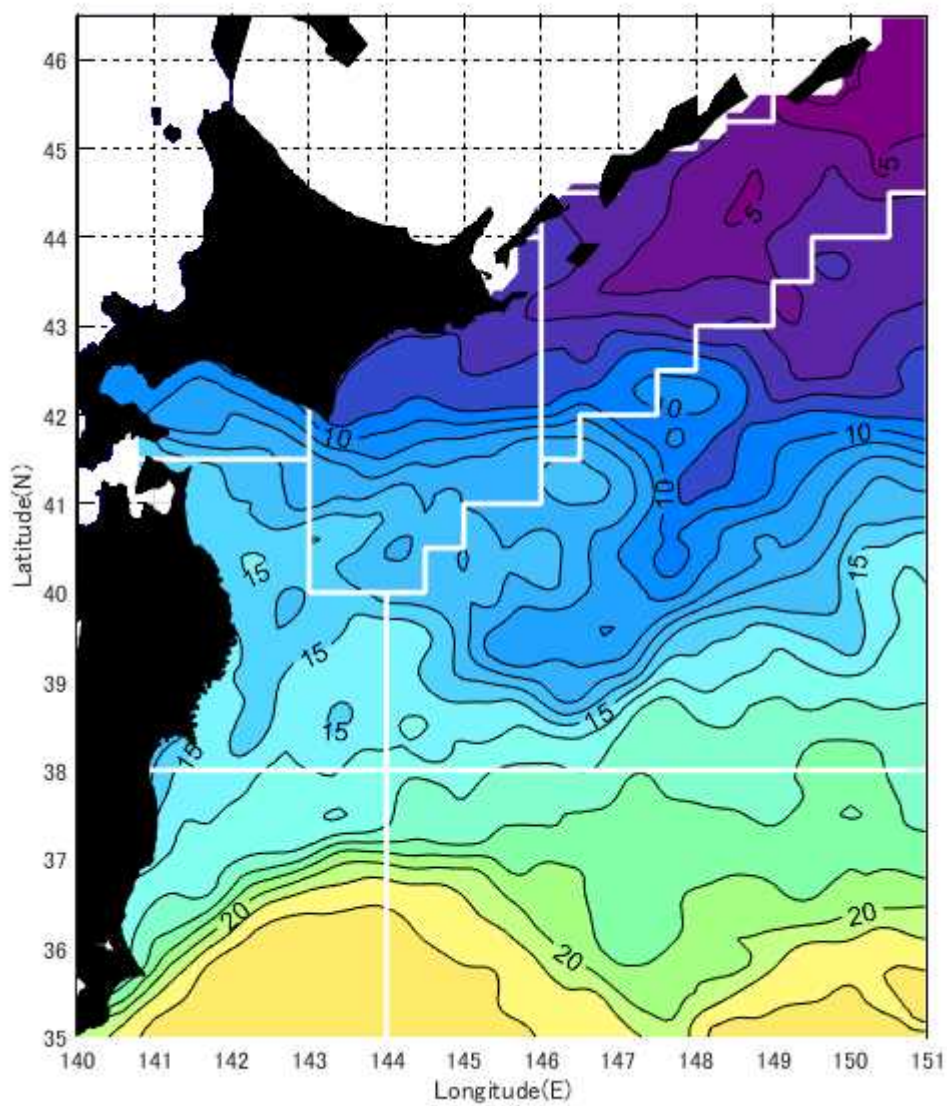
三陸海域より東側の宮古東北東130海里付近（漁場水温13～15℃）では、5～6日夜に大型船数隻操業し、最高26トン、平均10トン程度漁獲した。また大船渡～気仙沼東沖の150～230海里付近（漁場水温13～16℃）では、5日夜以降、大型船多数と小型船数隻が操業。大型船で最高65トン、平均18トン漁獲した。

(3) 魚体

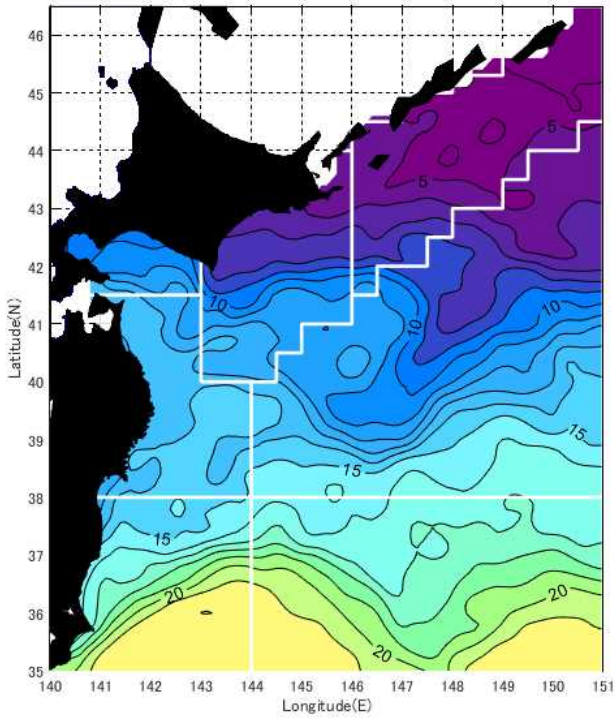
三陸海域、三陸海域よりも東側ともに体長25～26cmモードと29～30cmモードであった。体長29cm以上の魚の体重は110～130g台が主体であった。

4. 予測水温分布図

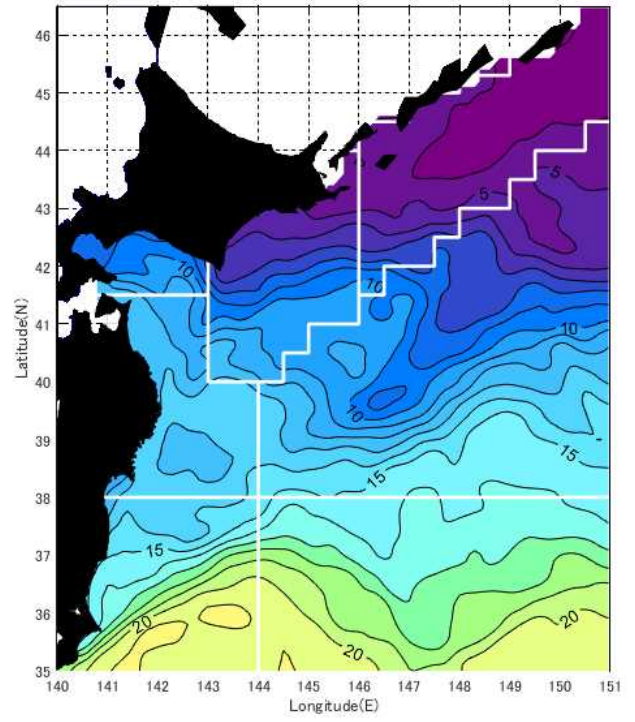
11月下旬予測表面水温分布図



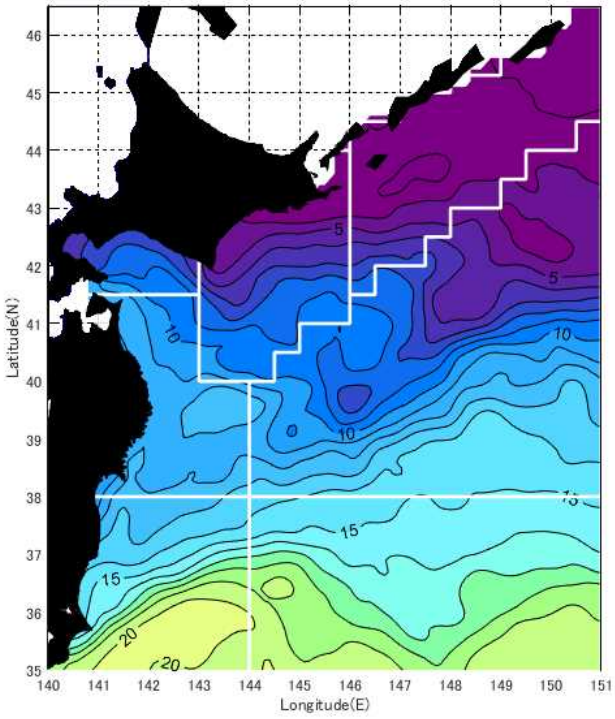
12月上旬予測表面水温分布図



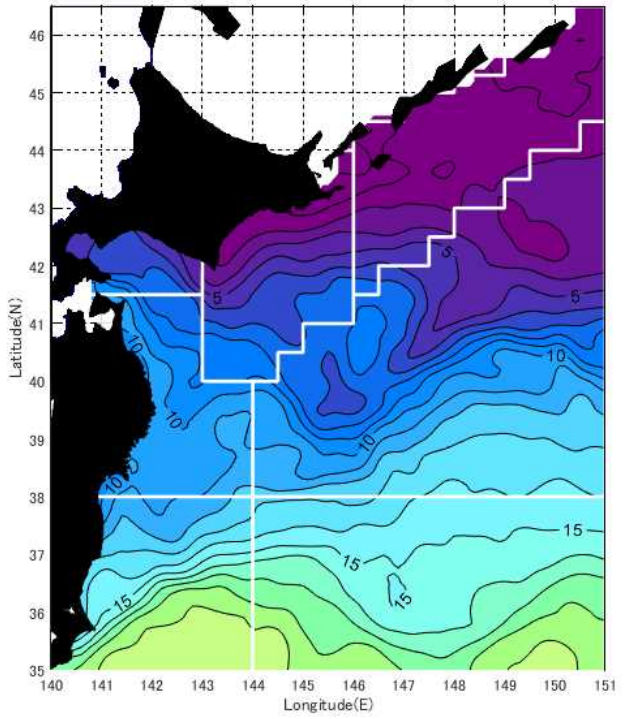
12月中旬予測表面水温分布図



12月下旬予測表面水温分布図



1月上旬予測表面水温分布図



参 画 機 関

<p>地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場</p> <p>岩手県水産技術センター</p> <p>宮城県水産技術総合センター</p> <p>福島県水産海洋研究センター</p>	<p>茨城県水産試験場</p> <p>千葉県水産総合研究センター</p> <p>国立研究開発法人 水産研究・教育機構 東北区水産研究所</p> <p>(取りまとめ機関) 一般社団法人 漁業情報サービスセンター</p>
--	--